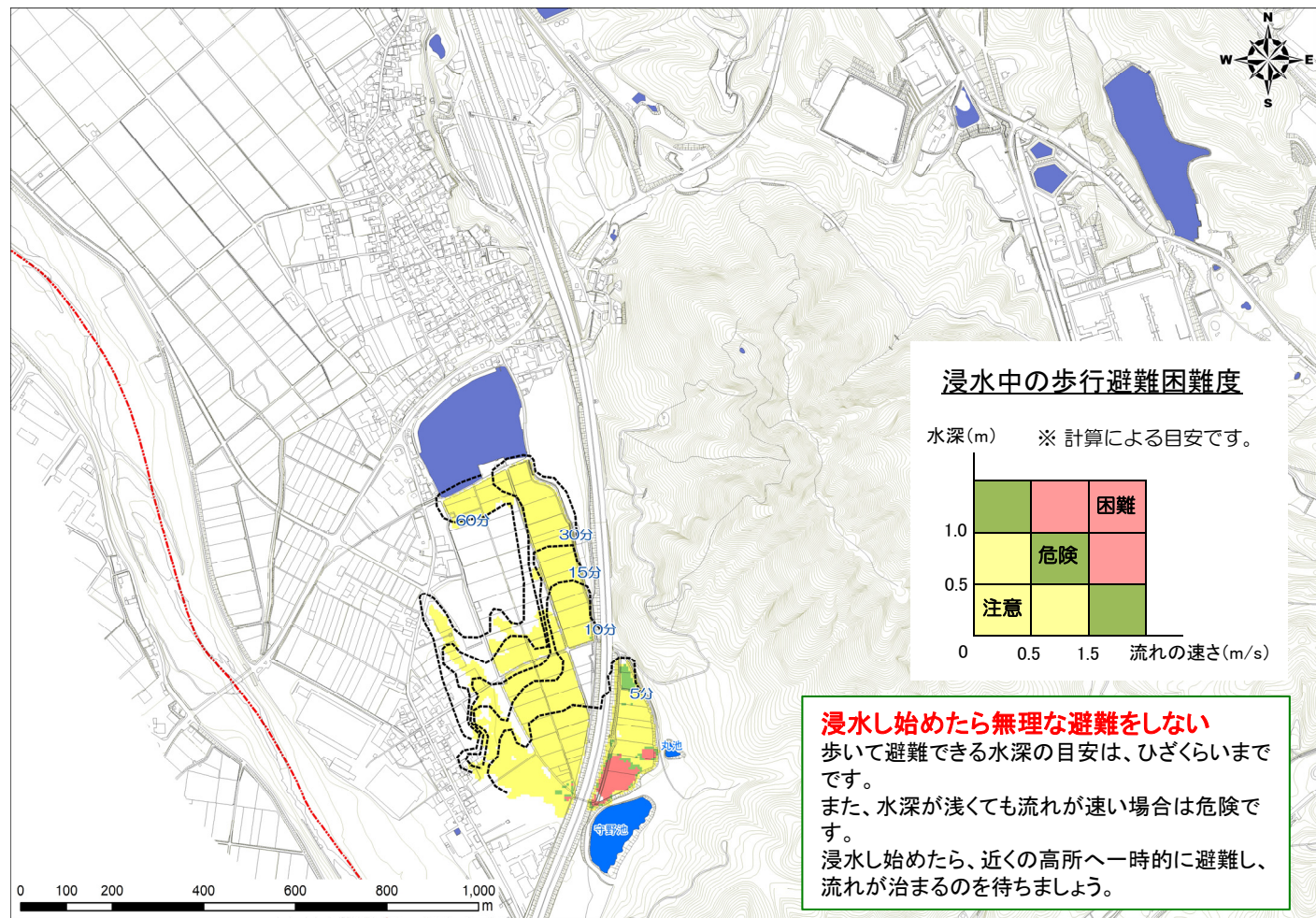


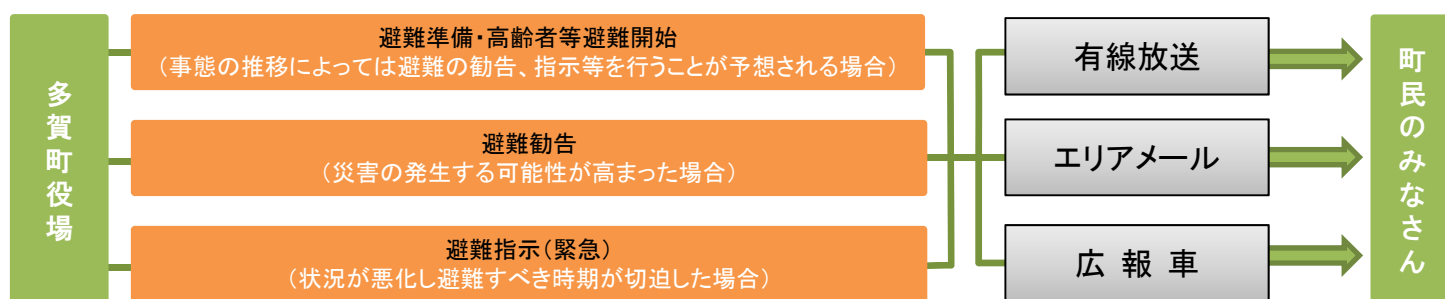
□ 水深が浅い場合でも水の流が速いと危険です！



□ 避難に備え早めの情報収集を行いましょう。

情報源	情報の種類	ウェブサイトアドレス
滋賀県防災ポータル	県内の防災関連情報や関連サイトなど	http://www.pref.shiga.lg.jp/bousai/
滋賀県土木防災情報システム	県内の気象情報や注意報・警報の発表状況など	http://shiga-bousai.jp/ (携帯サイト) http://shiga-bousai.jp/mobile/ (スマートフォンサイト) http://shiga-bousai.jp/sp/
リアルタイム川の防災情報	全国の雨量情報や水防警報など	http://www.river.go.jp/
気象庁	全国の気象情報や地震情報など	http://www.jma.go.jp/jma/index.html

□ 町役場から呼びかける避難情報



気象状況などにより避難情報が聞こえない場合や、伝達が間に合わない場合もありますので、身の危険を感じたら早めに避難して下さい。

【ため池ハザードマップに関するご意見・ご質問は】

多賀町役場 TEL (0749)48-8111 (代) ホームページ <https://www.town.taga.lg.jp/>
〒522-0341 滋賀県犬上郡多賀町多賀324

保存版

多賀町ため池ハザードマップ
(守野池、丸池)

作成:令和2年3月

この「ため池ハザードマップ」は、守野池、丸池が決壊した場合に想定される浸水区域や水深、および避難に役立つ情報を取りまとめたものです。ため池が決壊するおそれのある場合または決壊した場合に、迅速かつ安全に避難するために役立ててください。



【守野池、丸池の現状】

丸池は明治時代、守野池は時期不明ですが、農業用水を確保することを目的として築造されました。現在ではその豊富な貯水量と自然環境によって、利水はもとより動植物の生息・生育環境として貴重な役割も担っています。しかし、近年では施設の老朽化もみられ、施設の耐用能力を超える大雨や大規模な地震が発生した場合、堤防が損傷を受け決壊に至る可能性もあります。万が一ため池が決壊した場合、池の下流には一度に大量の水が短時間で押し寄せる可能性があります。

□ ため池ハザードマップの活用方法 (急な事態へ備えましょう)

【1】想定される浸水区域や深さなどをチェックしましょう。

- ・危険度やはん濫水の到達時間に応じた避難を考えましょう。
- ・災害時の様々な事態をイメージしましょう。



【4】日頃から家族や地域で話し合いましょう。

- ・災害時に協力し合えるよう、日頃から家族や地域で役割などを話し合いましょう。
- ・避難の際に支援が必要な要援護者への情報伝達や補助内容を決めておきましょう。



【2】避難場所を決めておきましょう。

- ・危険度やはん濫水の到達時間より、どこへ避難するかを決めておきましょう。
- ・危険度Ⅲの区域は、緊急避難できる身近な場所も探しておきましょう。
- ・家族の連絡先を確認しておきましょう。



【5】防災情報の入手先を確認しておきましょう。

- ・ため池の堤防が被災すると、短時間で決壊に至る可能性がありますので、日頃から防災情報がどこで入手できるかを確認しておきましょう。



【3】避難場所までの避難経路を考えましょう。

- ・避難場所まで実際に歩いて、移動時間を確認しておきましょう。
- ・避難途中で浸水した場合に緊急避難できる場所を探しておきましょう。



【6】町の公表している他のハザードマップもご覧ください。

- ・多賀町洪水ハザードマップには、大雨に伴う河川のはん濫や、その避難に関する情報を記載しています。このマップと併せて活用し、急な事態へ備えましょう。



多賀町ため池ハザードマップ（守野池、丸池）



- ### 凡例
- 拠点(指定)避難所
 - 福祉避難所
 - 災害時要配慮者施設
 - 災害時収容病院
 - 駐在所
 - 災害用ヘリコプター発着場
 - 多賀町役場
 - 避難方向
 - はん濫水の流れ
 - はん濫水到達時間

【はん濫シミュレーションの条件】

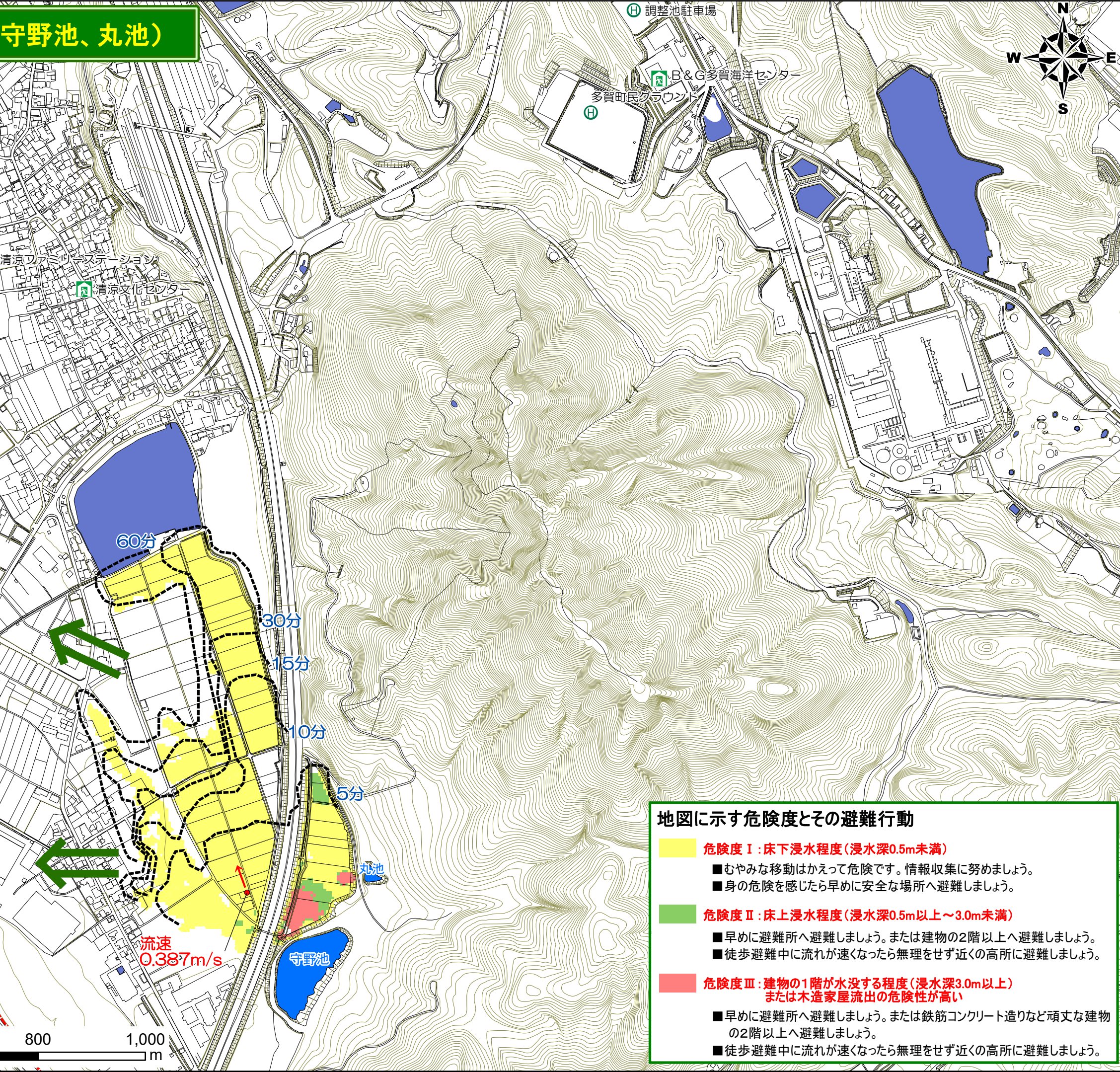
- ① 想定される最大規模のはん濫を想定しています。
- ② 決壊時のため池の貯水量は満水とし、地震または大雨等によって堤防が決壊し、全貯水量が流れ出すと仮定しています。
- ③ ため池決壊の進行速度は、堤防の被災要因によって様々なため、流れ出す水の勢いが強くなる場合を想定し、瞬時に決壊部の堤防がなくなると仮定しています。
- ④ 決壊を想定した位置は、堤防中央付近と仮定しています。
- ⑤ 数値シミュレーションは、地形を5mのメッシュで表したモデルを用いて、はん濫流の動きを計算しています。

【ハザードマップ活用の留意点】

東日本大震災の津波被害などでは、ハザードマップで示した浸水想定結果のイメージが固定化され、状況に応じた避難判断の阻害になったケースがありました。

浸水想定結果は、ある一つの仮定条件に基づく結果です。また、詳細な地形等を反映できていない場合もあり、浸水想定区域外での浸水や、想定結果以上の浸水深となる可能性もあります。

このため、ハザードマップは多様な災害をイメージする基礎情報であることに留意し、発災時は状況に応じた柔軟な避難行動を心がけてください。



- ### 地図に示す危険度とその避難行動
- 危険度Ⅰ：床下浸水程度(浸水深0.5m未満)**
 - むやみな移動はかえって危険です。情報収集に努めましょう。
 - 身の危険を感じたら早めに安全な場所へ避難しましょう。
 - 危険度Ⅱ：床上浸水程度(浸水深0.5m以上～3.0m未満)**
 - 早めに避難所へ避難しましょう。または建物の2階以上へ避難しましょう。
 - 徒歩避難中に流れが速くなったら無理をせず近くの高所に避難しましょう。
 - 危険度Ⅲ：建物の1階が水没する程度(浸水深3.0m以上) または木造家屋流出の危険性が高い**
 - 早めに避難所へ避難しましょう。または鉄筋コンクリート造りなど頑丈な建物の2階以上へ避難しましょう。
 - 徒歩避難中に流れが速くなったら無理をせず近くの高所に避難しましょう。

